

# ひろしまの遺跡

第105号

## 最古段階の旧石器 備北で発見



(庄原市 只野原3号遺跡)



積もった火山灰層が  
年代の判定に  
役立つんだ



ひろちゃん



やよいちゃん

あいら たらんざわ  
始良丹沢火山灰(約2万8千～3万年前)と  
三瓶池田火山灰(約5万年前)の間の粘土層  
からみつかった円形の土坑



# 発掘調査速報

平成22年度に調査した  
遺跡のうち、  
3か所を報告します。

## 只野原3号遺跡(第2次) (庄原市高野町)

調査期間  
平成22年4月19日～11月19日

只野原3号遺跡は神野瀬川の河岸段丘上(標高550m前後)にあります。中国横断自動車道尾道松江線建設事業に伴い、昨年度の調査に続いて第2次調査を実施しました。

遺跡(約5,000㎡)は4面の文化層があります。上から古墳時代～弥生時代(第1面)、縄文時代(第2面)、旧石器時代(第3面、第4面、地表下約3～3.5m)と4回調査しました。

第1面から竪穴住居跡1軒、土坑(弥生時代終末期)、掘立柱建物6棟(古墳時代か)、うち1棟は柱穴も大きく、柱痕跡がよくわかるものです。

第2面から縄文時代の土坑6基や多くの柱穴が見つかっています。うち2か所の土坑は連穴土坑と呼ばれるものに類似し、縄文時代前期頃のものと思われます。遺物は多くありませんが、スクレイパーや草創期の土器片などが出土しています。

第3面は三瓶浮布火山灰と呼ばれる、約2万年前に降り積もった(この付近で約2mの厚み)火山灰層を取り除いた面から、始良丹沢火山灰と呼ばれる約2万8千年～3万年前に降った(この付近で約15cmの厚み)火山灰層の間の粘土層(30～40cm)

この号で紹介している遺跡



を掘り下げました。この層では昨年は礫群が見つかっていますが、今回は黒曜石製のナイフ形石器などが見つかりました。

第4面は始良丹沢火山灰の層から、三瓶池田火山灰と呼ばれる約5万年前に降り積もった火山灰層の間の粘土層(30～40cm)を掘り下げました。この層では人頭大の石が1～4個のかたまりや、打製石斧や剥片を伴う遺物集中部が見つかりました。また径1.2～1.3m、深さ0.6m以上の円形の土坑も見つかりました。遺物集中部は3か所ありますが、それぞれの高さがほぼ同一で生活面が想定できます。火山灰の層位や石器の組成などから3～5万年前、後期旧石器時代の中でも古い様相を示し、最古段階の遺跡であることがわかりました。(地図①)



只野原3号遺跡の全景



遺物集中部



かいだはら  
**海田原第24～27号古墳** (三次市吉舎町) みよしきさちょう

**調査期間**

平成22年9月27日～12月17日

海田原古墳群は3基の前方後円墳を含む33基で構成される古墳群です。今回調査した第24～27号古墳は、古墳群の立地する丘陵の北東隅にあたり、南東方向に県史跡である三玉大塚古墳や市街地を望むことができます。また、北側は中国山地の山々が遠くに見わたせ、近くの水田との比高差は約85mです。

第24号古墳は、第25～27号古墳と約75m離れた丘陵の端に立地しています。古墳の規模は、周辺が墓地であったため不明ですが、現存の高さが1.4m、直径が推定15～17mの円墳です。4基の古墳の中では最大の規模です。埋葬施設は残っていませんでした。遺物は表土下から須恵器片・土師器片が出土しています。

第25～27号古墳は、いずれも直径が10m程度の円墳で幅1.2mの溝が廻っています。墳丘は盛土が流失していたため、わずかに残っている程度でした。第26・27号墳は、埋葬施設が確認できませんでした。埋葬施設が確認できたのは、第25号古墳のみです。第27号古墳は周溝内で墓坑の可能性が考えられる土坑が1基確認できました。

遺物はいずれの古墳も周溝内から出土しています。第25号古墳は土師器(埴・高杯)、須恵器片が、第26号古墳は鉄剣片・刀子片、土師器片、盛土内から縄文土器片が2点、第27号古墳は、鉄鏃・土師器片、溝内の土坑から滑石製の勾玉・白玉・土師器高杯・甕片が出土しています

海田原第24～27号古墳は、遺物からおおむね、5世紀後半から6世紀代にかけて築造されたと考えられます。

近年調査が行なわれた下矢井南第3～5号古墳、長畑山北第1～6号古墳、長畑山古墳、殿平古墳には、海田原第24～27号古墳と同時期に築造された古墳や横穴式石室を埋葬施設とする古墳もあり、当地域の当時の様子を考える上で貴重な調査となりました。(地図②)



海田原第24～27号古墳の空中写真(北西から)



第25号古墳の発掘風景



第26号古墳検出状況



第27号古墳の周溝内土坑



はつかいちまちやあと はつかいちし  
**廿日市町屋跡(第3次)**(廿日市市)

**調査期間**

平成22年9月27日～平成23年1月13日

廿日市町屋跡は、江戸時代に宿場町として栄えた廿日市市の市街地一帯にあります。広島圏都市計画道路事業廿日市駅通線に係る発掘調査で、平成20年度から3年間実施しました。最終年の今年度は、廿日市町絵図に描かれた、町屋の東西を貫く西国街道と南北に接している横小路の北西側が調査範囲でした。

江戸時代前・中・後期と、幕末の4面を調査し、町屋建物の一部と推測される礎石建物跡1棟、鍛冶炉30基、土坑31基、溝状遺構1条、地割を表す石列が3列、性格不明遺構3基を検出しました。

30基の鍛冶炉は、江戸時代から幕末、明治にかけて使用されたものです。このうち19基は、横小路にそっていました。幾つかの鍛冶炉は重複した状態で、廃棄した鍛冶炉の上面や横に、新たに鍛冶炉を造っている様子が確認できました。鍛冶炉の周辺には、炭化物が10～20cm程度堆積し、大量の鍛造剥片や湯玉が混在していました。こうしたことから、鍛冶炉の周辺が長期間、鍛造を行う作業場だったことがわかりました。

調査区西部で、鉄滓や壊れた鞆の羽口片などの捨て場を検出しました。この中から、椀形滓が大量に出土しています。鉄を精錬する大鍛冶か、または古い鉄を溶かして鉄の素材に戻す「卸鉄(おろしがね)」が行われたことを推測させます。青銅が付着した<sup>るっほ</sup>埴塙も出土し、青銅の鑄造を行っていた可能性があります。

遺物では、大量の鞆の羽口や鉄滓のほか、江戸時代から明治にかけての備前焼のすり鉢や瀬戸焼、伊万里焼など国産陶磁器片が出土しており、当時の活発な物の交流ぶりがうかがえます。また、中国製とみられる磁器片も出土しています。

さらに、寛永通宝や洪武通宝、無文銭などの古銭が500枚近く見つかったほか、灯明皿、釘などの鉄製品、青銅製の煙管や仏具、かんざし、杓子、仏像、犬の人形など、当時の生活や風俗をしのばせる遺物も出土しています。(地図③)



廿日市町屋跡の発掘風景



重複する鍛冶炉(東から)



町屋建物の礎石(北から)



かんざしの出土状況

平成22年度

## 「ひろしまの遺跡を語る～古墳時代の暮らしと心～」を開催しました

今年度はこれまでと趣向を変えて、右表のように、当埋蔵文化財調査室の調査研究員3名が午前中、研究発表を行いました。

「鉄が語るムラ」では、古代製鉄の原料には、鉄鉱石、砂鉄、両者併用の3通りがあると説明。6世紀後半に備後北部地域で本格化した鉄鉱石を原料とする製鉄は、吉備の影響を受けて成立し、製鉄関連遺跡と横穴墓の分布が重なることから、日本海側の影響も指摘しました。

「ものに託す願い」では、広島県内の古墳時代の祭祀関連遺物が出土した遺跡を集成。石製模造品や土製模造品は中期および中～後期に出土が最盛期となり、石製模造品は有孔円板、土製模造品は土製勾玉が中心であり、出土場所により「願う行為」が異なる可能性を示唆しました。

「土器副葬と死後観」では、朝鮮半島南部との密接な交流から、竪穴系の墓に土器を副葬するようになる5世紀代には日本人はすでに死後の世界の存在を受け入れていたと指摘。6世紀代に普及する横穴式石室の導入を契機として死後観が変容するという従来の説に疑問を投げ掛けました。

松木武彦教授は基調講演で、全国古墳の変遷からみて、4世紀から5世紀にかけて政治的に大きな変化があったと強調。4世紀の古墳が空白な備後北部について、「首長が初期大和政権に参画し、奈良盆地の一角に墳墓を求めた可能性がある」と指摘されました。また、三ツ城古墳のある西条盆地ように、5世紀の大きな古墳の近くに国府が置かれるのは、「律令国家の旧国につながる政治単位が生まれつつある状況」と話されました。



資料展示コーナーは盛況

の旧国につながる政治単位が生まれつつある状況」と話されました。

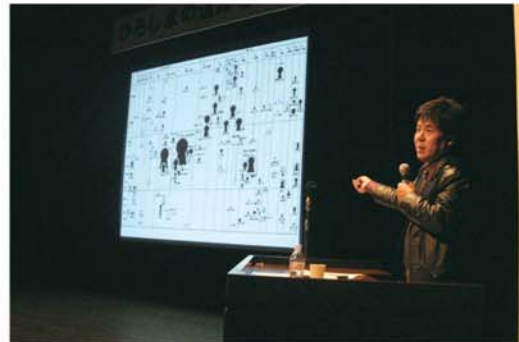
シンポジウムでコーディネーターの古瀬清秀教授は、発掘調査に携わる調査研究員が、地道な蓄積を研究発表したことを評価されるとともに、「埋蔵文化

日時 平成23年1月8日(土)10時～16時

会場 広島県民文化センター多目的ホール

内容

- ・研究発表I 「鉄が語るムラ」 岩本 芳幸
- II 「ものに託す願い」 山田 繁樹
- III 「土器副葬と死後観」 梅本 健治
- ・基調講演 「安芸・備後の古墳と古代国家形成」  
岡山大学大学院教授 松木 武彦氏
- ・シンポジウム 「古墳時代の暮らしと心」  
コーディネーター  
広島大学大学院教授 古瀬 清秀氏  
パネラー 松木氏、研究発表者3名



松木武彦教授の基調講演



熱心に聞き入る入場者



議論を深めたシンポジウム

財調査室をもっと身近に感じていただきたい」と述べ、会場に支援を呼びかけられました。

入場者は325名に上り、遺物展示コーナーでは質問が相次ぐなど、盛況な一日でした。

中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る  
**備北地域埋蔵文化財発掘調査報告会**  
 を開催します



備北地域では平成17年度から、中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査を行っています。これまで、多くの古墳をはじめ、旧石器・縄文～古代の多彩な遺構・遺物が見つかり、この地域の歴史像の解明に重要な手がかりをもたらしています。

このたび、今年度調査を行った4か所の遺跡について、その調査成果の一部を調査担当者がスライドを使って報告します。また、写真パネルや出土遺物も一部展示します。



只野原3号遺跡で検出した縄文時代の連穴土坑  
 (庄原市高野町)

【日時】平成23年2月26日(土)13時～16時

【会場】広島県立歴史民俗資料館 研修室(三次市小田幸町122, TEL 0824-66-2881)

【報告する遺跡(右側は時代・種別)】各報告は25～30分

- ① 只野原3号遺跡(第2次)(旧石器時代, 縄文時代, 弥生～古墳時代, 集落跡)
- ② 半戸1号遺跡(縄文時代, 落とし穴)
- ③ 石谷2号遺跡(第2次)(縄文時代, 落とし穴)
- ④ 海田原第24～27号古墳(古墳時代, 古墳)

**入場無料, 事前申込不要**

(資料館展示の観覧には別途料金が必要です)

◎主催 財団法人広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室  
 広島県立歴史民俗資料館

「れきし」体感学習センター」に活用ください。

学校の授業などに役立てていただくために、「れきし体感学習セット」の貸し出しを行っています。広島県内で発掘調査された遺跡から出土した遺物をとおして、歴史を実感していただくとう企画したもので、弥生時代(写真左)と古墳時代(写真右)の2つのセットがあります。

約2000年前のすすがついた土器や使いこんだ石器、約1400年前の古墳から見つかった須恵器や勾玉などから、当時の人たちの姿を想像してもらえればと思います。

どちらのセットも、遺物の実物と写真パネルで構成し、ケースに入れています。現代に届けられたタイムカプセルとして、ぜひ授業にご活用ください。貸し出しは両方のセットが一緒でも、どちらか一方でも結構です。予約のご相談は、電話でどうぞ。



財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報

**ひろしまの遺跡 第105号**

発行日 平成23(2011)年2月1日  
 編集 財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室  
 〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目8番49号  
 TEL(082)295-5751

ホームページ <http://www.harc.or.jp>  
 E-mail [maibun@harc.or.jp](mailto:maibun@harc.or.jp)

発行 財)広島県教育事業団  
 印刷 喜勝印刷株式会社